

R6年度 保護林モニタリング予定箇所(保護林)

◎:要素大、○:要素有り、△:要素見

資料8

関東森林管理局 保護林一覧

計画区	樹立年度	署	保護林名称	保護林区分	面積	5年の要素							備考	シカ	クマ	病虫害
						ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ				
奥久慈	R2	棚倉	八溝山シロヤシオ希少個体群保護林	希少	43.59					△			シロヤシオ群落で1箇所新設プロット検討	○		
那珂川	R2	塩那	流石山・大峠ミヤマナラ希少個体群保護林	希少	97.31					○				○		
那珂川		塩那	尚仁沢生物群集保護林	生物群	616.34					○			天然記念物	○		
那珂川		塩那	那須街道アカマツ遺伝資源希少個体群保護林	希少	41.81	△				○			アカマツにマツクイムシ被害有り 樹幹注入実施			○
那珂川		塩那	大佐飛山地生物群集保護林	生物群	8,152.35					○				○		
利根上流	R2	沼田	武尊山シラカンバ遺伝資源希少個体群保護林	希少	8.60	○		△					シラカバの更新確認出来ず、別の樹種へ。ミズナラとの樹冠競合により枯損が見られる。シラカンバは山火事等広い面積でない更新できない。いずれ衰退していくが、50年程度は維持できると考えられる。様々な遷移段階のシラカバ林が混在。育種センターでも10年以上モニタリングしており、衰退状況を見ていく保護林。関東のシラカンバ林木遺伝資源は1箇所しかない。維持についてどう考えていくかが今後の課題(予算的にも物理的にも難しい課題)。育種センターで2010年,2015年にモニタリング調査している。	○		
利根上流		沼田	栗原川ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林	希少	11.75	○		△		○			ウダイカンバの更新確認出来ず、別の樹種へ。直径から、まだ若い林分と思われる。ウダイカンバの生長量を把握していく。近隣で皆伐すれば更新の可能性も有り。	○	○	
多摩	R2	東神	高尾山モミ希少個体群保護林	希少	4.85	○				○			高尾山モミの更新が不良 → 常緑カンシ林へ	○		
上越	R2	上越	火打山周辺ライチョウ希少個体群保護林	希少	826.74			○			△		他のモニタリングと異なる視点が必要 イネ科植物の進入が顕著 植生の変化が与えるライチョウへの影響			
富士	R2	静岡	富士山生物群集保護林	生物群	1,027.09					○	○		下層植生にシカ食害あり H31シカ進入防止策設置予定	○		
富士		静岡	富士山峠塚ウラジロモミ希少個体群保護林	希少	4.84	○				◎	◎		下層植生にシカ食害あり	○		
富士		静岡	富士山六番ブナ希少個体群保護林	希少	6.17					◎			下層植生にシカ食害あり 植生保護柵設置	○		
富士		静岡	愛鷹山生物群集保護林	生物群	570.17					○	○		下層植生にシカ食害あり	○		

【モニタリング間隔 5年の基準】 (要領第5-2)

- ア：遷移の途中段階にある保護林
- イ：復元を行っている保護林
- ウ：保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林
- エ：保護林外部からの影響を受けている保護林
- オ：鳥獣・病虫害被害及び移入種による影響が顕著にある保護林
- カ：温暖化による影響が顕著にある保護林
- キ：その他、短期間で大きな変化が想定される保護林